

平成 30 年度事業計画書

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

1 事業実施の方針

平成 30 年度は認定 NPO 法人として法令および各種規定に順守した法人として、寄付者への寄付金受領証明書の発行など新たな業務を適切に行い、利用者だけでなく、支援者にとっても信頼される団体として体制を整えていく。また、今年度は岡山市委託事業として「小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事業」を受託することができ、活動拠点（事務所）と病棟の支援活動が、岡山市保健所を通じて小児慢性特定疾病児童等へ広報されることにより事業拡大が見込まれる。

多くの病気を抱える子どもとご家族が安心して利用できるよう、活動現場での感染症対策・スタッフやボランティアへの個人情報保護研修等を徹底する。さらに、各医療施設の小児医療従事者、教育関係者、行政関係者との信頼構築・連携強化により子どもたちの支援拡充を図っていく。

各助成事業では、岡山市以外でも講演会などの開催により病気の子どもたちの理解を広げるための啓発活動を行い、各地域での理解者・支援者のつながりをつくっていく。大学連携や啓発活動によって、支援活動に必要な人材を適宜確保していく。学習支援ボランティアリーダー育成では病棟支援活動や交流イベントにおいての企画運営などに取り組むためのリーダーを複数名養成する。その他、病気によって就労体験が不足している若年者に向けての就労支援の試みも進めていく。以上の事業を通じて、今までの学習・復学支援事業だけにとどまらず、体験の空白を補うプログラムや、就労、保護者・きょうだいを支える事業などを行い、病気を抱える子どもとご家族を地域で総合的に支える仕組みづくりを行う基礎を構築していくことを目標とする。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名：病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業内容	実施予定日 時	実施予定場 所	従事者の 予定人数	受益対象者の 範囲及び 予定人数	支 出 見 込 額 (円)
【個別学習支援】 自宅療養中や復学初期の子どもに対しての学習サポート	随時 年間約 50 日 各 1 時間	療養中の 自宅等	3 名	病弱児 述べ 50 名	50,000
【双方向WEB学習支援】 嚴重な感染防止下にある子どもや、遠隔地で療養する子どもに対し、ICT 機器を使用した学習支援	随時 年間約 100 日 各 1 時間	療養中の 自宅等	10 名	病弱児 述べ 100 名	1,650,000 (ベネッセ)
【VR体験学習】 病気や身体的な障害により体験できなかったことを、仮想現実により体験	随時 年間約 10 日 各 1 時間	療養中の 自宅等	各 5 名	病弱児 述べ 20 名	400,000
【ボランティア育成】 学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、ボランティアリーダー育成	年間約 12 日 各 2 時間	きらめきプ ラザ等	各 3 名	支援ボラン ティア延べ 40 名	1,090,000 (タケダ)
【事務所バリアフリー化】 様々な状態の病弱児に対し、身体的に適切な支援を行うことができ、精神的に安定して過ごせる環境を作るための施設整備事業	6 月～7 月	支 援 拠 点 (ポケット サポート事 務所)	2 名	病弱児及び その家族、 延べ 200 名	4,500,000 (日本郵政)

定款の事業名：病弱児同士の交流や、集団での学習活動による交流支援事業

事業内容	実施予定 日 時	実施予定 場 所	従事者の 予定人数	受益対象者 の範囲及び 予定人数	支 出 見 込 額 (円)
<p>【小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事業】 慢性的な疾病を抱える児童及びその家族の負担軽減及び長期療養をしている児童の自立や成長支援について、地域の社会資源を活用するとともに、利用者の環境に応じた支援（患児同士の交流、ピアサポート相談、学習支援等）を行う</p>	<p>毎週水曜 4時間 (年46日)</p> <p>毎週水曜、 木曜 各2時間 (年90日)</p>	<p>支援拠点 (ポケットサポート事務所)</p> <p>岡山済生会総合病院、国立岡山医療センター</p>	<p>30名</p> <p>6名</p>	<p>病弱児とその家族述べ250名</p>	<p>2,000,000</p>
<p>【交流イベント】 病弱児の体調に配慮した施設や環境で、季節に応じた交流イベントの開催、対人関係のスキル向上や当事者同士の交流を促す</p> <p>学習空白や社会体験を補い、コミュニケーション力の向上など、病弱児同士の自立を促す学習活動</p>	<p>年2回 夏、冬</p> <p>年8回</p>	<p>きらめきプラザや市内公共施設</p> <p>岡山市内総合病院の小児科など</p>	<p>20名</p> <p>2名</p>	<p>病弱児とその家族述べ50組</p>	<p>300,000</p>
<p>【体験学習】 ボランティアと共に学ぶ交流体験学習により、学ぶ意欲や治療に向かう力を養う</p>	<p>年3回 8月,11月, 翌2月</p>	<p>支援拠点, ゆうあいセンター等</p>	<p>15名</p>	<p>病弱児とその家族述べ10組</p>	<p>300,000</p>
<p>【きょうだい・家族ケア】 家族が日常の介護からの解放、当事者同士の語らいによるピアサポート、自分たちらしい家族を形成するための支援</p>	<p>年4回 5月,8月, 10月,12月</p>	<p>きらめきプラザ、ゆうあいセンター等</p>	<p>20名</p>	<p>病弱児と保護者家族（保護者、きょうだい等）10組</p>	<p>600,000</p>

定款の事業名：病弱児への支援に関する講演活動および講師派遣事業

事業内容	実施予定日 時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込額(円)
【講師派遣事業】 大学の講義や教育・医療関係者の研修に講師を派遣し、病弱児支援について広報、周知活動を行う	随時 年間約10日 各1時間	岡山大学、 就実大学、 地域の公民館、 医師会等	各3名	大学生 300名 地域住民各 50名 医療関係者 各100名	200,000
【副島先生講演会】 病弱児の教育や療養環境について、支援に関わる際の感情の扱い方について講演会を開催する	6月10日	岡山大学 金光ホール	20名	一般市民 300名	280,000
【慢性疾病を抱える若者の就労啓発】 岡山県内で病弱児への就労や雇用に対する意識を向上させ、就労企業を増やす取り組み、20歳以上の病弱の若年層が働ける環境づくりを行う	12月9日	岡山国際交流センター	5人	病弱者を雇用している企業約5社、 病弱の若年者約20名等、 地域住民、企業、学生等100名	725,000
【病弱児を支える地域支援ネットワーク作り】 病弱児の抱える課題や現状を地域の医療、福祉、教育、行政などの支援者が共有し、つながるキャラバン隊活動を通じて、当事者と支援者がつながり安心して過ごせる地域づくりを行う	7月、9月、 11月、翌2月	備前市、 瀬戸内市、 玉野市、 岡山市	8名	各地域の医療、 教育、福祉、 支援団体など 支援者240名、 病弱児とその 家族	1,450,000

3 事業実施による効果と目標

昨年度から引き続き行われる事業に加え、新たな助成事業や岡山市から受託となった「小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事業」により、学習・復学支援の利用者増を見込んでいる。

啓発に関する講演会では、年間10ヶ所以上での講演活動や啓発イベントで参加者総数800名の参加を目標とする。今年度は施設整備事業を行うことで、車椅子ユーザーの利用者及びスタッフの支援拠点利用により、3名以上の病弱若年者の就労体験支援を行う。以上の事業を確実に実施していくために、現スタッフだけでなく適宜人員を補充・拡充しながら、病気の子どもたちやその家族が安心して過ごせる事業実施体制を、関係者と定期的に協議しながら構築していく。

また今年度は、支援体制の構築において、以下の点を充実させることを目標とする

- ・ボランティアスタッフの支援力向上と、小児慢性特定疾病児童等相互交流事業の受託に伴い、年間延べ400名を超える病弱児及び家族の利用により、地域での支援体制の拡充を図る。
- ・認定特定非営利活動法人として、病弱児の置かれている社会課題を伝え理解を深めることで、個人及び企業からの寄付による支援を募り、活動資金の安定化を図る。